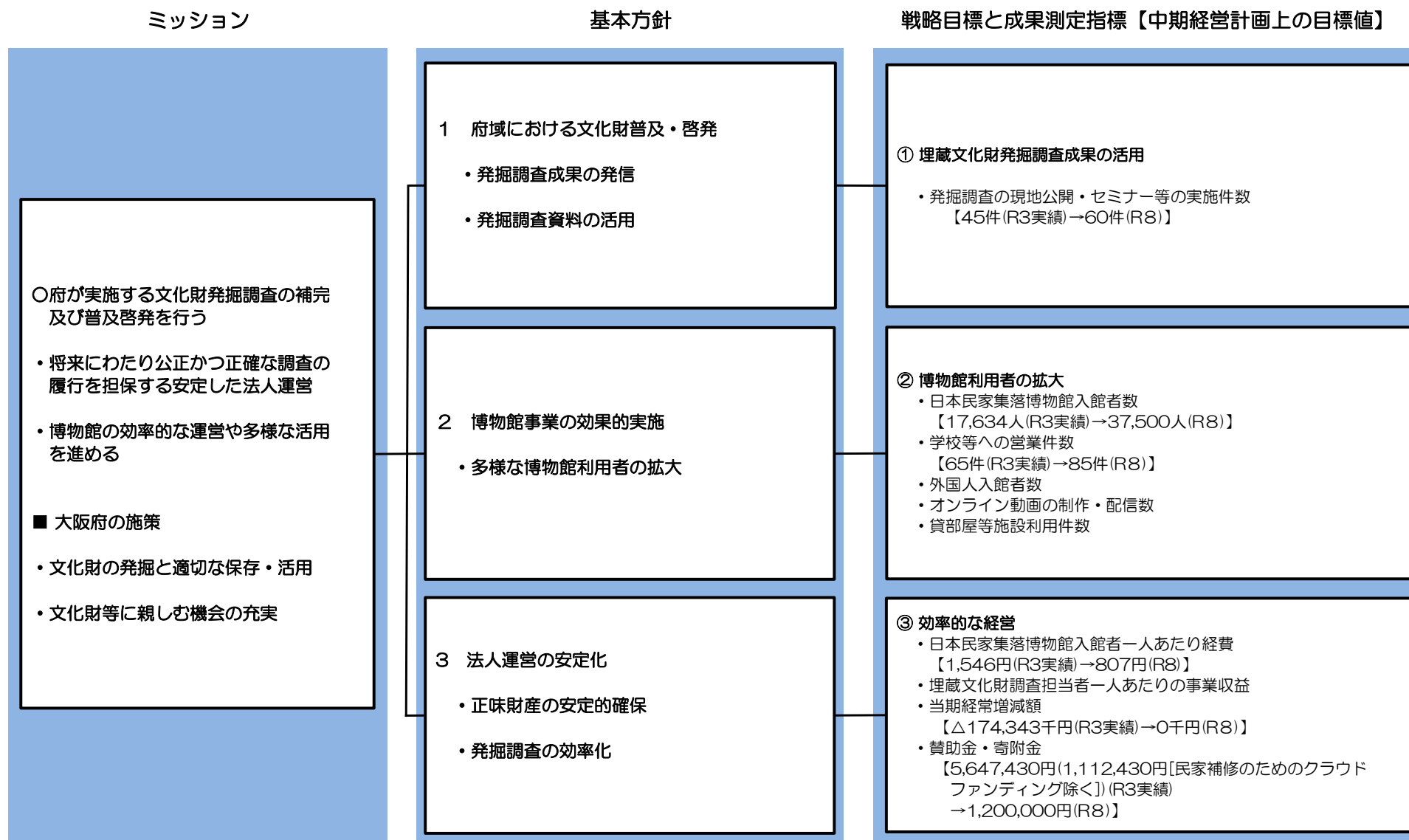


法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
作成(所管課)	教育庁文化財保護課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和7年度の経営目標達成状況及び令和8年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)														
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 【見込値】	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	
											R8 目標値	最終年度 目標値		
① 埋蔵文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開・セミナー等の実施件数		件	56	58	58	40	40	60	40	60	60	60	中期経営計画による最終年度目標値
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項			
最重要とする理由、 経営上の位置付け	<p>当法人では、令和4年度に策定した中期経営計画のビジョンとして、以下の3本柱を設定している。</p> <p>①【文化財を後世に】⇒ 遺跡の発掘から歴史の解明 ②【文化財を身近に】⇒ 地域の歴史学習への寄与 ③【文化財で心を豊かに】⇒ 「温故知新」で文化力向上</p> <p>具体的には、①「高質な発掘調査を継続して実施し、開発によって失われる遺跡の正確な記録を残す」、②「文化財資料活用事業や博物館管理運営事業を通して、府民や明日を担う子ども達に文化財の大切さや魅力を具体的に伝える」、③「文化財を通して、先人の知恵と工夫を学び、これを府民に伝える」ことを目指している。</p> <p>人口減少社会の到来が現実となる中、平成31年4月に施行された改正文化財保護法では、これからの文化財保護行政は、従来までの保存重視から保存と活用を一体的に推し進め、地域社会全体で文化財を次世代に継承していくための取り組みを行う必要があることが強く打ち出され、地域固有の文化財を通じて、住民が地域に愛着や誇りを見出し、個性的で活力のあるまちづくりに寄与することが期待されている。当法人が約半世紀にわたって手掛け、蓄積してきた埋蔵文化財の調査成果は、府民にとって大切な地中に埋もれた地域資源であり、これを府民に伝えていくことは、当法人の大きな使命の一つであると考えている。</p>											<p>発掘調査現場の現地公開の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地説明会の開催 ・地域住民を対象とした現地公開の実施 ・地元学校の見学受け入れ ・HPやSNSを活用した発掘調査成果の発信 <p>発掘調査資料の活用・公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内自治体や府立博物館と連携した速報展示や講演会等の実施 ・泉佐野市立歴史館いずみさの(指定管理)の積極的活用 <p>学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発掘現場への近隣小学校の見学誘致 ・高校生の考古学体験の受け入れ ・大学との連携による考古学関連の講義 		
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>課題: 発掘調査現場の現地公開では、タイトな調査期間の中で、その準備に関して十分な時間を費やすことが困難となることも多い。コロナ禍を経験し、府民の発掘調査情報を得る手段が多様化している。</p> <p>改善点: 現地説明会などの開催においては、YouTubeを活用してホームページ上でWeb現地説明会を開催したり、リアルタイムで現地説明会の状況を配信する等、多様なニーズに合わせた新しい文化財資料活用事業のあり方を確立する。</p>											<p>民間企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近鉄文化サロンと連携した連続講演会を実施 <p>多様なニーズに合わせた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページなどによる情報発信機能の充実 ・YouTube等による動画配信 ・SNSを活用した情報発信 ・報道提供によるマスメディアによる情報発信 		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・府内自治体や民間企業等の関連団体との連携をさらに強固なものとし、当法人が培ってきた企画力と専門分野の知識をもつ豊富な人材、民間企業がもつ広報力とネットワークを相互に活用し、Win-Winの関係で事業を進める。 ・文化財に対する府民の興味・関心を一層呼び起こし、理解が深まるよう、大阪府や関連自治体と連携する。大阪府内の博物館施設等で実施する展示事業等を通じて地域の文化財の周知に寄与する。 ・府民が情報を得る手段の多様化に対応し、インターネットでの動画配信等これまでの方法とは異なる手法で発掘調査成果等の情報発信を行う。 											<p>大阪府教育庁文化財保護課、大阪府立弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、狭山池博物館との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府施策への協力 		

法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
-----	-------------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6実績値	R7目標値	R7実績値 〔見込値〕	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の 場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
											R8 目標値	最終年度 目標値		
② 博物館利用者の拡大	日本民家集落博物館入館者数		人	26,912	32,200	×29,046	8	3	32,200	8	37,500	37,500	R7年度実績から中期経営計画の最終年度の目標値達成は困難と考えることから、R7年度に設定した目標値を踏まえて設定	・民家を活用したコンサートやコスプレ等のイベントの誘致拡充や地元自治体との連携による行事などにより入館者増につなげる。 ・ホームページリニューアルによるロケ地情報や四季折々の花々の開花状況やイベントの開催状況、展示民家や民具に関連する情報を発信し、博物館の魅力を広く周知する。 ・敦賀の民家の保存修理事業に伴い、大阪・関西万博に使用された素材をリユースしていることからレガシーの継承と文化財のさらなる魅力を発信する。
	学校等への営業件数(プロセス)		件	88	90	93	8	8	95	8	85	85	R6年度に最終年度目標値にすでに達成しており、R7年度目標値設定に際して前年R6年度実績を踏まえたことから、R8年度目標値設定に際しても同様に前年度実績を踏まえて設定	・学校への継続的な誘致活動の実施 ・展示民家の元所在地自治体や旅行関連機関や施設への広報
	外国人入館者数(プロセス)		人	3,848	3,850	4,446	4	4	4,450	4	—	—	R7年度目標値設定に際して前年R6年度実績を踏まえたことから、R8年度目標値設定に際しても同様に前年度実績を踏まえて設定	・旅行会社や宿泊施設への広報や外国語表記の博物館案内提供
	オンライン動画の制作・配信数		件	4	4	4	8	8	4	8	—	—	全展示民家の解説動画作成が一巡したことから、さらなる魅力動画制作を進める	・展示民家の解説動画など、オンラインを活用して博物館の情報を効果的に発信することで、博物館の魅力を高め、来館意欲を喚起
	貸部屋等施設利用件数		件	101	125	151	4	4	155	4	—	—	R8年度にコロナ禍以前の回復を目指すこととし、R8年度最終目標を150件に設定し、R7年度に達成したことからR7年度実績を踏まえて設定	・展示民家を展示会、撮影会等の会場として、貸出利用を広く発信することで、博物館の魅力を広く周知し、活用を促進

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

効率的な経営 (博物館事業の効果的実施)	(日本民家集落博物館)入館者一人あたり経費 (事業費/利用者数)		円	1,003	950	[950]	4	4	↓ 990	4	807	807	R8年度日本民家集落博物館の当初予算事業費ならびにR7年度入館者数を踏まえて設定	・ホームページ・SNSなどインターネットによる情報発信を強化し、新たな来館者層の開拓を行う	
(効率的経営の推進)	埋蔵文化財調査担当者一人あたりの事業収益		千円	(20,525)	22,873	[25,123]	10	10	26,356	10	—	—	R8年度埋蔵文化財調査の当初予算事業費ならびに担当職員数を踏まえて設定	・事業者と事前協議を綿密にとることにより遅延なく計画どおり遂行 ・当初計画以降の調査要望には柔軟に対応し、受託できる方向を調整	
(安定的財務基盤の確立)	当期経常増減額		千円	23,109	0	[69,957]	10	10	↓ 0	10	0	0	公益法人として収支相償をめざした中期経営計画を踏まえて設定	・埋蔵文化財発掘調査の事業確保に加え、日本民家集落博物館事業において、来館者・施設利用者の増加を図り、収支相償を目指す	
(民家集落博物館展示民家保存修理のための自主財源の確保)	賛助金・寄附金		円	1,142,825	1,200,000	1,203,194	4	4	↓ 1,200,000	4	1,200,000	1,200,000	中期経営計画を踏まえて設定	・個人に対して、イベント時に積極的に呼びかける ・企業等からの賛助金の休止・減額が続くなかあつて、広報活動を進め、賛助金の提供再開を働きかける	
							R7得点合計 〔見込得点合計〕	[95]							

【凡例】

- ・☆はR8年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人 大阪府文化財センター

CS調査の実施概要

○令和7年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ②発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①日本民家集落博物館利用者へのアンケート ②発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①日本民家集落博物館の来館者 ②発掘調査遺跡現地公開開催時の来場者	①261人 ②454人	①秋季を中心とした期間 ②11月8日、1月31日

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>①</p> <p>1 民家と自然との調和の満足度。暖かい雰囲気、丁寧な説明の高評価。各地の実物民家をみる事ができた満足度の高さ。 2 広報不足の指摘。行事等のさらなる情報発信</p> <p>②</p> <p>1 現地公開時に遺跡や出土品への丁寧な説明や質問に答える満足度の高さ。出土品に触れることができる体験の満足度の高さ。 2 広報不足の指摘。</p>	<p>(結果を踏まえ実施した取組)</p> <p>①</p> <p>1 館内清掃や整備をすすめ、心地よい空間の維持に努めた。 2 配信しているフェイスブックに行事案内も随時配信することを心掛けた。</p> <p>②</p> <p>1 初めての参加者が理解できるように丁寧な説明や質問に対する回答を心掛けた。 2 実施する自治体の協力を得て、現場地元への広報の確認。</p> <p>(今後実施予定の取組)</p> <p>①</p> <p>1 保守環境の維持・整備。 2 行事案内のSNS等への積極的な配信。</p> <p>②</p> <p>1 事前準備における説明リハーサル等の実施。触れることができる出土品の準備。 2 実施する自治体の協力を得て、現場地元への広報の強化。</p>

○令和8年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ②発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①日本民家集落博物館利用者へのアンケート ②発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①日本民家集落博物館の来館者 ②発掘調査遺跡現地公開開催時の来場者	①約400名 ②約100名×3回	①秋季期間 ②現地公開開催時

■ 目標値未達成の要因について

[1]

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
日本民家集落博物館入館者数	人	32,200	29,046	△ 3,154

未達成の要因					要因分析(要因と考える根拠)					要因分析を踏まえた今後の対応
①	小学校来館の減少				小学校の来館は、R6年度47件3,772人、R7年度34件2,979人の実績であり、約800人減であった。うち5月の遠足シーズンは大阪・関西万博への行先変更した学校があったため、前年度より9件約500人減であった。その他に入館料支出の予算がなく無料施設へ切り替えた学校や隔年での来館の学校もあったためである。					・R7年度に来館しなかった学校に対して、R8年度に来館依頼の広報を実施する。
	関連項目名	入館者数	単位	人	R7当初想定値	3,800	R7実績値	2,979	差	
②	秋季(10月)の天候不順による減少				秋季の最適なシーズン等での来館者増を想定していたが、10月は土日が天候不順であったことと残暑が中旬まで残り、秋季の期間が短くなる気候変動の影響により、野外博物館には厳しい気候となった。					①イベントの拡充(敦賀民家保存修理に伴う行事、豊中市民デー、秋の民家まつり、豊中市市制90周年イベント(服部緑地)に協賛等、その他イベントの誘致強化等)により約1,900人の増加を見込む。 ②ホームページリニューアルにより、映画やドラマ等のロケ地利用の情報を掲載し、ロケ地巡礼の魅力を発信することにより約500人の増加を見込む。
	関連項目名	入館者数	単位	人	R7当初想定値	4,500	R7実績値	2,523	差	

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[1]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
オンライン動画の制作・配信数	件	4	4

マイナス (現状維持) 目標の考え方	日本民家集落博物館のオンライン動画は、R5年度に全展示民家の解説動画が一巡し、基礎的な情報発信は充足している。R6・R7年度は保存修理過程や季節行事など内容を深化させた動画を制作しており、R8年度も内容を厳選して作成し配信を予定している。なお、制作には企画・撮影・編集等の負担が大きく、制作時間もかかることから、職員体制や予算を踏まえ、昨年度と同様の年間4件とする。
-----------------------------------	---

[2]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
(日本民家集落博物館) 入館者一人あたり経費	円	[950]	990

マイナス (現状維持) 目標の考え方	R8年度の目標値は当初予算の事業費と入館者数から算出している。 事業費※ 26,150,000円(税抜) 28,765,000円(税込) a 入館者数 29,050人 b 一人当たり単価 990円 a/b ※総事業費から民家修繕費を差し引いた額。
-----------------------------------	--

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[3]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
当期経常増減額	千円	[69,957]	0

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>公益法人として収支相償をめざした中期経営計画を踏まえて設定する。</p> <p>(正味財産増減計算書において、当期経常増減額はR6年度およびR7年度はプラスとなっている。R6年度以降、埋蔵文化財調査事業の受託積算基準の見直しにより、当期経常増減額のそれまでのマイナス収支は改善した。一方、埋蔵文化財調査事業の受託は増加したが、職員の人材確保が十分にできず人件費が抑制されていることや長田事務所の撤去もしくは底地取得の所収が定まっていないため、本来必要な経費が支出されていないことからプラス収支になっている。この剰余金は長田事務所の取り扱いにおいて、上記の費用に充てる計画であり、公益法人における収支相償は図られている。)</p>
--	---

[4]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
賛助金・寄附金	円	1,203,194	1,200,000

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>賛助金については、企業の経営状況の影響を受けやすく、また個人からの支援も減少傾向にあり、厳しい環境にある。そのため、賛助金・寄附金について、過去の実績を平準化した5か年平均額(1,191千円)を基準とし、中期経営計画を踏まえ、1,200千円を目標として設定する。</p> <p>賛助金・寄附金の推移 R3年度: 1,112,430円 R4年度: 1,206,939円 R5年度: 1,288,276円 R6年度: 1,142,825円 R7年度: 1,203,194円 平均1,190,732円</p>
--	--